

平成 30 年度(2018 年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

1. 目 的

近年、セタシジミの漁獲量は 100 トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、産卵期にあたる 5～7 月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方 法

2018 年 6 月 22 日および 23 日に琵琶湖北湖一円の主要 7 漁場を含む 16 漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅 145cm、網目 3 cm）を用いて調査した。各漁場内の調査か所は原則として過年度を踏襲し、必要に応じて別か所でも実施した。1 か所につき 1 分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。GPS の軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕数を計算し、資源密度とした。

3. 結 果

資源密度は、全漁場の平均では前年の 0.87 個体/㎡に対して 0.90 個体/㎡とほぼ同じであった（表 1）。主要漁場の資源密度は平均では 0.99 個体/㎡と比較的高かったが、漁場別では磯や沖島南西で増えた一方、今西や松原などでは減少した（図 1）。これは、2017 年 10 月の台風 21 号で前者の湖底が荒れて操業が困難になったため、漁獲圧が後者に偏ったことを反映していると考えられた。

サイズ別の推移をみると、殻長 18mm 未満の密度が平均 0.78 個体/㎡から 0.69 個体/㎡へ減少したのに対して殻長 18mm 以上は平均で 0.18 個体/㎡から 0.30 個体/㎡へと増加し、前年に増えた 2014 年生まれと考えられる小型貝が成長によって漁獲対象資源に加入したことを示した（図 2）。

表 1 2018 年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度

漁場	採捕数	曳網面積(㎡)	密度(個/㎡)
東岸			
今西※*	407	444	0.97
長浜※*	265	367	0.72
磯※	399	191	2.08
松原※*	532	413	1.29
石寺	172	206	0.84
新海	66	203	0.33
沖島東※	132	199	0.66
沖島西※	113	223	0.51
沖島南西※	148	218	0.68
牧	132	203	0.65
菖蒲	324	174	1.86
西岸			
海津	69	187	0.37
針江	59	229	0.26
鴨川	289	232	1.25
高島	167	210	0.79
近江舞子	268	232	1.16
平均			0.90

※主要漁場 *2か所の合計(密度は2か所の平均)

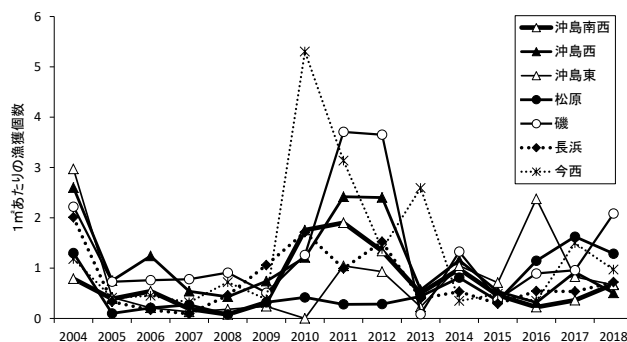


図 1 各主要漁場における資源密度の推移。

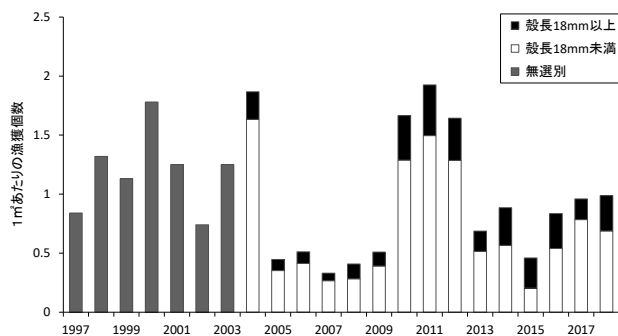


図 2 主要 7 漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。